

市民プレス

SHIMIN PRESS

7月5日 第61号

2013年(平成25年)

発行人 「市民フォーラム」
 編集人 原 昭二
 制作 デジタル工房
 E-mail hara@camelianet.com
 TEL 090 (3048) 5502
 〒353-0004 埼玉県志木市本町 2-4-43

市民の目線で市民が発信する地域情報紙

WEB SHIMIN

http://shimin.camelianet.com

「市民プレス」電子版(無料)を公開しました

http://pr-shimin.camelianet.com

電子書籍専用のアプリケーション等でお読み下さい。

CONTENTS

- PAGE 1
鎌倉に幕府を開いた この人 源頼朝 (その一)
鎌倉の大倉郷に入府する 寝殿造りの邸宅 御所の所在地はいま 永福寺建立の由縁は... 姿を消した長勝寿院
- PAGE 2
頼朝の生立ちを巡って... 頼朝は義朝の三男だった 頼朝は殿上人として... 武士の台頭と平氏の政権
- PAGE 3
坊門姫の血筋か将軍に 頼朝の異母兄は... 保元の乱につづいて平治の乱が起る
- PAGE 4
Global Mind 西域紀行 その三 深瀬 克 『吾妻鏡』を読む

鎌倉に幕府を開いた...

この人 源頼朝 その一

鎌倉の大倉郷に入府する... 以仁王の合旨を受けた頼朝が、配所の伊豆から挙兵したのは、治承四年(1180)八月のことである。緒戦では平家方に敗れたが、劇的な再起行を経て、十月、父義朝所縁の鎌倉に入府した。拠点を大倉郷に定め、大庭景義を担当者として新しい館が建設された。

二倍もの大きさだった。厩は十五間(37.8m)、馬三十頭を収容する規模をもち、その近くに御家人の宿館が立ち並んでいた。御所内には御寝所などの私的なゾーンと、公的なゾーンがあり、政務は問注所や評定を行う西中門廊、内膳侍上などで行なわれたという。

完成した新邸に入る... 頼朝は十二月十二日、上総広常の邸を出て、完成した新邸に入った。多くの武士が従い、儀式が行なわれた。出仕の場である侍所に、清泉水学校裏山(大倉山)の中核となる遺跡としてクロウズアップされている。

史跡「法華堂跡」 清泉水学校裏山(大倉山)の中核となる遺跡としてクロウズアップされている。

当初は父の屋敷が所在した亀ヶ谷が候補地であったが、手狭なことから、義朝の菩提を申う寺がすでに建てられていたので、大倉の地が選ばれた。ここが鎌倉の外港、六浦と結ぶ道沿いに在って、四神相応の地(四つの方を司る四神に相応しい地相)だったことによる

「吾妻鏡」には、「東国の人々といわれる。大倉御所はのちに幕府としての諸機能を加え、武家政権の拠点として、朝廷に対抗する力を得た。

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

史跡「法華堂跡」 清泉水学校裏山(大倉山)の中核となる遺跡としてクロウズアップされている。

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて

頼朝の邸宅は寝殿造り 東・西・南・北に門があり、敷地内の寝殿(正殿)は南の庭に面して建てられた一般的な貴族の「寝殿造り」だったという。頼朝は幼少時には京都に在って、宮人たちと親しかつたことが、邸宅の構築に影響を与えたと推定されて



絹本着色「伝源頼朝像」 国史院蔵

京都市右京区高野の高野山真言宗遺跡本山神護寺の所蔵、「神護寺略記」には頼朝像と記されているが、異説もある。



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト



制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

永福寺のCG画像

永福寺のCG画像 制作：鎌倉市と湘南工科大学のCG復元プロジェクト

その沿革は・・・

源頼朝は、父源義朝の菩提を弔うため、寺院の建立を発意し、元暦元年(1184)、大御堂ヶ谷の地に定め、倉を治めた足利氏の鎌倉公方により焼き討ち(鶴岡八幡宮の戦い)が天降り、神験を恐れた里人等が社を建築するための地ならしの儀式(家屋などを尊重された。しかし、足利成氏(古河に遇ったのち、北条氏綱が再建を果した。頼朝は後白河院に依頼して鎌倉から下総国古河に移り、同寺の庇護を受けて規模が大きくなり、仁門主であった成潤(成氏の兄弟)も、王門、護摩堂、輪蔵、神楽殿、愛染堂、心鎌田政清の首は、勅使となった大江朝朝によって鎌倉に届けられた。文治元年(1185)九月三日、義朝の遺骨と政清の首は南御堂の地に埋葬され、頼朝の他は、平賀義信とその子息惟義、源頼隆ら平治の乱の関係者のみが立ち会いを許された。

交易を行なう寺社造営料唐船(建長きた。寺船)が派遣された。

勝長寿院は、鎌倉幕府滅亡後、鎌倉も減少したが、戦国時代、里見氏縁起によれば、長治元年(1104)、雷雨とともに黒い束帯姿の天神画像が天降り、神験を恐れた里人等が社を建ててその画像を納め祀ったと伝えている。治承四年(1180)、大蔵の熱田神宮大宮司藤原季範の娘の由良御前である。当時の熱田大宮司家は、男

頼朝の生立ちを巡って・・・

いう。

頼朝は義朝の三男だった

武士の台頭と平氏の政権

十世紀になって地方の政治が乱れ、各地で成長した豪族や荘官は、他の豪族や受領から自らを守るために武装し、互いに争って勢力を拡大した。農民から武士が発生し、家子と呼ばれる一族や、郎等といわれた従者を従え、武士団を結成した。

特に武蔵の国では良馬を産したので、武士の成長は目覚ましかった。十一世紀になると、地方に下つて土着した貴族たちを棟梁とする大武士団が結成された。こうして有力な桓武平氏と清和源氏とが生まれたのである。

十一世紀後半のことになる。東北地方で起こった前九年の役(1051-62)、後三年の役(1083-87)を鎮圧した源氏の棟梁、源義家は、東国の武士の信望を高めて勢力を伸ばした。

十一世紀の終わりに、ときの白河天皇は、摂関家を抑えて親政を行ったのち、位を譲って上皇となつてからも政治から離れなかつた。上皇の御所を院とつていたので、この政治は院政と呼ばれる。上皇は源氏と平氏の武士団に身辺の警護に当たられた。

院政のもとで成長した武士は、東国で源氏が、また西国では平氏が勢力を得て、上皇と天皇との政治の実権争いが起こると、源氏と平氏はその争いに動員されて戦った。保元の乱である。

保元の乱は・・・

保元元年(1156)、摂関家の内紛と、皇位継承問題が結び付いて起った戦乱である。藤原忠通(兄)と頼長(弟)との勢力争いは、鳥羽法皇の死後、天皇方の藤原忠通は後白河天皇に与し、一方、頼長は崇徳上皇方と結んで争った。どちらも源氏・平氏の武士を集め、京都市内で戦つたのである。

後白河天皇方の平清盛と源義朝らの夜討ちによつて、崇徳上皇方は敗北したが、このとき源為義、義朝父子は、両陣営に分かれて争つたので、敗者となつた父、為義は、義朝の元に出頭する。

父の助命を訴えたが、義朝の願ひは却下され、義朝の手によって処刑された。『保元物語』には、父や幼い弟達を斬ることになる悲劇が詳しく描かれていて涙をそそる。義朝の弟の源為朝は伊豆大島へ流罪となり、崇徳上皇は讃岐に配流となった。また藤原頼長は、流れ矢の傷がもとで死去し、平清盛の叔父



鎌倉市内地図

威容を誇る鶴岡八幡宮は・・・

鶴岡八幡宮の参道は若宮大路(一部河内源氏(河内国、現・大阪府羽曳野を除いて国指定史跡)と呼ばれ、由比ヶ谷を本拠地とする)の二代目、源頼朝が、前九年の役での戦勝を祈願した、南北に貫いている。京の朱雀大路を内源氏の棟梁は、義家から義忠、為義、義朝へ、そして頼朝へと繋がる。

久安年間の頃に結婚したと推測される、義朝との間に頼朝、希義、坊門姫の三子をもうけた。なお義門も彼女が所生ではないかとの説がある。

頼朝は、久安三年四月八日(1147)に生まれ、正室の長男だった。父義朝は都から東国に向かう途中、三浦義明・大庭景義ら、東国の有力な在地の豪族を傘下に収めて勢力を伸ばした。都に戻った義朝は、東屋市熱田区(現在の名古屋)に生まれ、正室の長男だった。父義朝は、三年後の平治の乱で敗れたが、三年後の平治の乱で敗れたが、道中で馬も失い、裸足で尾を引いた。都に戻った義朝は、東屋市熱田区(現在の名古屋)に生まれ、正室の長男だった。父義朝は、三年後の平治の乱で敗れたが、道中で馬も失い、裸足で尾を引いた。都に戻った義朝は、東屋市熱田区(現在の名古屋)に生まれ、正室の長男だった。

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった

頼朝の生立ちを巡って・・・

頼朝は義朝の三男だった



『平治物語絵巻』より 右の子供は頼朝

平治の乱で敗走する義朝一行

しかし恩賞目当ての長田父子に頼朝は、坊門信隆、吉田経房らとともに敵盃役をつとめ、また、同年六月に二条天皇の蔵人に補任された。兄の朝長は、頼朝より先に任官して

従五位下の位階を得ていた(内大臣を務めた公卿、中山忠親の日記、『山槐記』による)が、頼朝の昇進はより早いことから、母親の家柄が群を抜いて高経に嫁いて西園寺実氏と倫子を産む。頼朝が、義朝の後継者として待遇が結婚し、その子供たちが五撰家の斬られた。

因みに熱田神宮は、景行天皇うち九条、一条、二条家を興す。また、相模の武将で波多野莊(現・神奈川四十三三年の創建と伝えられ、三種の神器の一つ・草薙神剣を神体とする藤原頼経がいる。

頼朝の死後、鎌倉幕府で源氏の将軍が断絶すると、頼朝の姉妹となる坊門姫の血筋であったので、曾孫の頼朝の母は由良御前・・・

藤原頼経が四代将軍に迎えられた。頼朝の姉か、妹か、論議はされてはいるが、確かな答えはない。坊門姫(久寿元年ハ1154または久安元年ハ1145)建久元年ハ1190四月廿日ハ新曆では五月廿五日)は、『平治物語』で坊門の姫と呼ばれている。の他には登場しない。夜叉御前は久安六年(1150)生まれ、母は美濃青墓(現・岐阜県大垣市青墓)の長者大炊兼遠の娘延寿だった、と兄頼朝が伊豆に配流になった日と同日の永暦元年(1160)三月十一日、土佐国介良莊(現・高知県高知市)に流罪となり、以降「土佐冠」として、流刑地にて成人した。悪禪師とも呼ばれたと伝わる。

長男の義平、次男・朝長は・・・

義平の母は、相模国三浦郡衣笠城の武将、三浦義明の娘といわれている(ただし、京都郊外、橋本の遊女との(1180)(寿永元年ハ1182)ともいわれる)に死亡、同母兄である頼朝はその死をいたく悲しんだという。

吉見御所といわれた・・・

六男の範頼は遠江国蒲御厨(現・浜松市)で生まれ育ったので、蒲冠を冠し、源氏内部の争いが結びついたものであった。

この大蔵合戦以降、義平は「鎌倉一字を取って「範頼」と名乗った」という。官位の高い公家の藤原氏との繋がりは、源頼朝の乳母を務めた比企尼を通してではないか、と推測される。彼女の長女・丹後内侍は宮中

は範頼の妻となつて、二人の子に恵する謀反の疑いによつて常陸国に配流され、翌月下野国で誅殺された。しかその実力を示し、朝廷から恩賞が与えられた。ところが、保元の乱から三年後の平治元年(1159)の十二月、戦乱が勃発した。

天皇親政となり、その下で権勢を誇った藤原通憲(法名は信西)は、後白河天皇が皇位を二条天皇に譲ると、藤原信頼と対立する。一方、戦功の薄い平清盛の方が高い恩賞を受けたため、義朝の不満が増大して、信頼らの反信西派と義朝が結びついた。

平治の乱は・・・

平清盛が熊野詣で京を留守している間に、藤原信頼と源義朝を中心として起こされたクーデターが端緒となった。

信頼と義朝は、後白河上皇と二条天皇を幽閉し、信西邸を襲撃する。しかし、急ぎ帰洛した清盛は、二条天皇を清盛の六波羅邸に移し、信頼・義朝追討の旨を受けた。追い込まれた義朝は軍勢を率いて六波羅に攻め込み、源義平(悪源太)ら東国武士が勇戦するが、激しい合戦の末、数に勝る平家方が勝利した。

この戦いで平清盛は、参議正三位に列せられた。また一族も多くの恩賞を受け、ここに平氏政権の基礎が築かれたのである。

落ち武者たちは・・・

一方、逃れた藤原信頼は、義朝とともに東国へ落ちようとするが、義朝から拒絶された。仁和寺にいた後白河院にすがり、助命を嘆願したが、朝廷は信頼を謀反の張本人として許さず、公卿でありながら六条河原で斬首された。享年二十七才。

義朝は逃亡先の尾張で討ち取られたが、義朝の嫡子、源頼朝は助命され、流罪となつて伊豆に流され、二十年後の決起・旗揚げまで流人生活を送った。また、常御前所生の今若(阿野全成)・乙若(義円)・牛若(源義経)の幼い三兄弟も助命されている。

は建仁三年(1203)五月、頼家に対する謀反の疑いによつて常陸国に配流され、翌月下野国で誅殺された。しかその実力を示し、朝廷から恩賞が与えられた。ところが、保元の乱から三年後の平治元年(1159)の十二月、戦乱が勃発した。

天皇親政となり、その下で権勢を誇った藤原通憲(法名は信西)は、後白河天皇が皇位を二条天皇に譲ると、藤原信頼と対立する。一方、戦功の薄い平清盛の方が高い恩賞を受けたため、義朝の不満が増大して、信頼らの反信西派と義朝が結びついた。

平治の乱は・・・

平清盛が熊野詣で京を留守している間に、藤原信頼と源義朝を中心として起こされたクーデターが端緒となった。

信頼と義朝は、後白河上皇と二条天皇を幽閉し、信西邸を襲撃する。しかし、急ぎ帰洛した清盛は、二条天皇を清盛の六波羅邸に移し、信頼・義朝追討の旨を受けた。追い込まれた義朝は軍勢を率いて六波羅に攻め込み、源義平(悪源太)ら東国武士が勇戦するが、激しい合戦の末、数に勝る平家方が勝利した。

この戦いで平清盛は、参議正三位に列せられた。また一族も多くの恩賞を受け、ここに平氏政権の基礎が築かれたのである。

落ち武者たちは・・・

一方、逃れた藤原信頼は、義朝とともに東国へ落ちようとするが、義朝から拒絶された。仁和寺にいた後白河院にすがり、助命を嘆願したが、朝廷は信頼を謀反の張本人として許さず、公卿でありながら六条河原で斬首された。享年二十七才。

義朝は逃亡先の尾張で討ち取られたが、義朝の嫡子、源頼朝は助命され、流罪となつて伊豆に流され、二十年後の決起・旗揚げまで流人生活を送った。また、常御前所生の今若(阿野全成)・乙若(義円)・牛若(源義経)の幼い三兄弟も助命されている。

常盤御前を母親として・・・

阿野全成(ぜんせい、とも)は、源義の家人・高橋盛綱と交戦の末に討ち取られた。享年、二十七才。

遺児の義成は愛智莊(現・愛知県愛知郡)を領し、愛智氏の祖となった。

九男の義経は伝説的な人・・・

幼名は牛若丸。検非違使・左衛門少尉・伊予守。九郎判官と呼ばれる。

幼少時は鞍馬寺に預けられるが、のちに抜けだして奥州の藤原秀衡の庇護を受けた。

治承四年(1180)、兄源頼朝の挙兵を知ると秀衡の制止を振り切つて参陣した。その後、頼朝の代官として出陣し、木曾義仲討伐の宇治川の戦い、平家討伐の一ノ谷の戦い・屋島の戦いで勝利した。さらに壇ノ浦の戦いでついに平家を滅ぼした。

しかし、鎌倉凱旋を許されず、京に戻つた義経は、打倒頼朝の挙兵を試みた。しかし兵が集まらず都落ちして、逃避行の末に藤原秀衡を頼つて奥州へ赴く。秀衡が亡くなるとその子藤原泰衡が頼朝の要求に屈し、泰衡の手に

で平重衡らの軍と対峙する(墨俣川の戦い)。この時、義円は単騎敵陣に夜襲を仕掛けようと試みるが失敗し、平家を脱出しようとするが、義朝から拒絶された。仁和寺にいた後白河院にすがり、助命を嘆願したが、朝廷は信頼を謀反の張本人として許さず、公卿でありながら六条河原で斬首された。享年二十七才。

義朝は逃亡先の尾張で討ち取られたが、義朝の嫡子、源頼朝は助命され、流罪となつて伊豆に流され、二十年後の決起・旗揚げまで流人生活を送った。また、常御前所生の今若(阿野全成)・乙若(義円)・牛若(源義経)の幼い三兄弟も助命されている。

頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

四男の義門は、生没年、母親も、事蹟も不詳、五男、希義は、頼朝の朝の七男、側室の常盤御前の長男。頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

阿野全成(ぜんせい、とも)は、源義の家人・高橋盛綱と交戦の末に討ち取られた。享年、二十七才。

遺児の義成は愛智莊(現・愛知県愛知郡)を領し、愛智氏の祖となった。

九男の義経は伝説的な人・・・

幼名は牛若丸。検非違使・左衛門少尉・伊予守。九郎判官と呼ばれる。

幼少時は鞍馬寺に預けられるが、のちに抜けだして奥州の藤原秀衡の庇護を受けた。

治承四年(1180)、兄源頼朝の挙兵を知ると秀衡の制止を振り切つて参陣した。その後、頼朝の代官として出陣し、木曾義仲討伐の宇治川の戦い、平家討伐の一ノ谷の戦い・屋島の戦いで勝利した。さらに壇ノ浦の戦いでついに平家を滅ぼした。

しかし、鎌倉凱旋を許されず、京に戻つた義経は、打倒頼朝の挙兵を試みた。しかし兵が集まらず都落ちして、逃避行の末に藤原秀衡を頼つて奥州へ赴く。秀衡が亡くなるとその子藤原泰衡が頼朝の要求に屈し、泰衡の手に

で平重衡らの軍と対峙する(墨俣川の戦い)。この時、義円は単騎敵陣に夜襲を仕掛けようと試みるが失敗し、平家を脱出しようとするが、義朝から拒絶された。仁和寺にいた後白河院にすがり、助命を嘆願したが、朝廷は信頼を謀反の張本人として許さず、公卿でありながら六条河原で斬首された。享年二十七才。

義朝は逃亡先の尾張で討ち取られたが、義朝の嫡子、源頼朝は助命され、流罪となつて伊豆に流され、二十年後の決起・旗揚げまで流人生活を送った。また、常御前所生の今若(阿野全成)・乙若(義円)・牛若(源義経)の幼い三兄弟も助命されている。

頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

四男の義門は、生没年、母親も、事蹟も不詳、五男、希義は、頼朝の朝の七男、側室の常盤御前の長男。頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

阿野全成(ぜんせい、とも)は、源義の家人・高橋盛綱と交戦の末に討ち取られた。享年、二十七才。

遺児の義成は愛智莊(現・愛知県愛知郡)を領し、愛智氏の祖となった。

九男の義経は伝説的な人・・・

幼名は牛若丸。検非違使・左衛門少尉・伊予守。九郎判官と呼ばれる。

幼少時は鞍馬寺に預けられるが、のちに抜けだして奥州の藤原秀衡の庇護を受けた。

治承四年(1180)、兄源頼朝の挙兵を知ると秀衡の制止を振り切つて参陣した。その後、頼朝の代官として出陣し、木曾義仲討伐の宇治川の戦い、平家討伐の一ノ谷の戦い・屋島の戦いで勝利した。さらに壇ノ浦の戦いでついに平家を滅ぼした。

しかし、鎌倉凱旋を許されず、京に戻つた義経は、打倒頼朝の挙兵を試みた。しかし兵が集まらず都落ちして、逃避行の末に藤原秀衡を頼つて奥州へ赴く。秀衡が亡くなるとその子藤原泰衡が頼朝の要求に屈し、泰衡の手に

で平重衡らの軍と対峙する(墨俣川の戦い)。この時、義円は単騎敵陣に夜襲を仕掛けようと試みるが失敗し、平家を脱出しようとするが、義朝から拒絶された。仁和寺にいた後白河院にすがり、助命を嘆願したが、朝廷は信頼を謀反の張本人として許さず、公卿でありながら六条河原で斬首された。享年二十七才。

義朝は逃亡先の尾張で討ち取られたが、義朝の嫡子、源頼朝は助命され、流罪となつて伊豆に流され、二十年後の決起・旗揚げまで流人生活を送った。また、常御前所生の今若(阿野全成)・乙若(義円)・牛若(源義経)の幼い三兄弟も助命されている。

頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

四男の義門は、生没年、母親も、事蹟も不詳、五男、希義は、頼朝の朝の七男、側室の常盤御前の長男。頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

阿野全成(ぜんせい、とも)は、源義の家人・高橋盛綱と交戦の末に討ち取られた。享年、二十七才。

遺児の義成は愛智莊(現・愛知県愛知郡)を領し、愛智氏の祖となった。

九男の義経は伝説的な人・・・

幼名は牛若丸。検非違使・左衛門少尉・伊予守。九郎判官と呼ばれる。

幼少時は鞍馬寺に預けられるが、のちに抜けだして奥州の藤原秀衡の庇護を受けた。

治承四年(1180)、兄源頼朝の挙兵を知ると秀衡の制止を振り切つて参陣した。その後、頼朝の代官として出陣し、木曾義仲討伐の宇治川の戦い、平家討伐の一ノ谷の戦い・屋島の戦いで勝利した。さらに壇ノ浦の戦いでついに平家を滅ぼした。

しかし、鎌倉凱旋を許されず、京に戻つた義経は、打倒頼朝の挙兵を試みた。しかし兵が集まらず都落ちして、逃避行の末に藤原秀衡を頼つて奥州へ赴く。秀衡が亡くなるとその子藤原泰衡が頼朝の要求に屈し、泰衡の手に

で平重衡らの軍と対峙する(墨俣川の戦い)。この時、義円は単騎敵陣に夜襲を仕掛けようと試みるが失敗し、平家を脱出しようとするが、義朝から拒絶された。仁和寺にいた後白河院にすがり、助命を嘆願したが、朝廷は信頼を謀反の張本人として許さず、公卿でありながら六条河原で斬首された。享年二十七才。

義朝は逃亡先の尾張で討ち取られたが、義朝の嫡子、源頼朝は助命され、流罪となつて伊豆に流され、二十年後の決起・旗揚げまで流人生活を送った。また、常御前所生の今若(阿野全成)・乙若(義円)・牛若(源義経)の幼い三兄弟も助命されている。

頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

四男の義門は、生没年、母親も、事蹟も不詳、五男、希義は、頼朝の朝の七男、側室の常盤御前の長男。頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

阿野全成(ぜんせい、とも)は、源義の家人・高橋盛綱と交戦の末に討ち取られた。享年、二十七才。

遺児の義成は愛智莊(現・愛知県愛知郡)を領し、愛智氏の祖となった。

九男の義経は伝説的な人・・・

幼名は牛若丸。検非違使・左衛門少尉・伊予守。九郎判官と呼ばれる。

幼少時は鞍馬寺に預けられるが、のちに抜けだして奥州の藤原秀衡の庇護を受けた。

治承四年(1180)、兄源頼朝の挙兵を知ると秀衡の制止を振り切つて参陣した。その後、頼朝の代官として出陣し、木曾義仲討伐の宇治川の戦い、平家討伐の一ノ谷の戦い・屋島の戦いで勝利した。さらに壇ノ浦の戦いでついに平家を滅ぼした。

しかし、鎌倉凱旋を許されず、京に戻つた義経は、打倒頼朝の挙兵を試みた。しかし兵が集まらず都落ちして、逃避行の末に藤原秀衡を頼つて奥州へ赴く。秀衡が亡くなるとその子藤原泰衡が頼朝の要求に屈し、泰衡の手に

で平重衡らの軍と対峙する(墨俣川の戦い)。この時、義円は単騎敵陣に夜襲を仕掛けようと試みるが失敗し、平家を脱出しようとするが、義朝から拒絶された。仁和寺にいた後白河院にすがり、助命を嘆願したが、朝廷は信頼を謀反の張本人として許さず、公卿でありながら六条河原で斬首された。享年二十七才。

義朝は逃亡先の尾張で討ち取られたが、義朝の嫡子、源頼朝は助命され、流罪となつて伊豆に流され、二十年後の決起・旗揚げまで流人生活を送った。また、常御前所生の今若(阿野全成)・乙若(義円)・牛若(源義経)の幼い三兄弟も助命されている。

頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

四男の義門は、生没年、母親も、事蹟も不詳、五男、希義は、頼朝の朝の七男、側室の常盤御前の長男。頼朝の異母兄弟の四、五男は・・・

阿野全成(ぜんせい、とも)は、源義の家人・高橋盛綱と交戦の末に討ち取られた。享年、二十七才。

遺児の義成は愛智莊(現・愛知県愛知郡)を領し、愛智氏の祖となった。

九男の義経は伝説的な人・・・

幼名は牛若丸。検非違使・左衛門少尉・伊予守。九郎判官と呼ばれる。

幼少時は鞍馬寺に預けられるが、のちに抜けだして奥州の藤原秀衡の庇護を受けた。

治承四年(1180)、兄源頼朝の挙兵を知ると秀衡の制止を振り切つて参陣した。その後、頼朝の代官として出陣し、木曾義仲討伐の宇治川の戦い、平家討伐の一ノ谷の戦い・屋島の戦いで勝利した。さらに壇ノ浦の戦いでついに平家を滅ぼした。

しかし、鎌倉凱旋を許されず、京に戻つた義経は、打倒頼朝の挙兵を試みた。しかし兵が集まらず都落ちして、逃避行の末に藤原秀衡を頼つて奥州へ赴く。秀衡が亡くなるとその子藤原泰衡が頼朝の要求に屈し、泰衡の手に



『平治物語絵巻』三条殿焼討(ポストン美術館所蔵)



新疆ウイグル自治区は、中華人民共和国の西端にある。民族自治区として、伝統的な古い暮らしが、いまも残され、ツリスストにとって魅力に溢れた地域である。

西域紀行

その三 深瀬克

1. 砂漠の洪水
タクラマカン砂漠に「大洪水」が起きるなんて、夢想だにすることが無かった。降水量が極端に少ないのに、何と年に数回「大洪水」が起きるのは事実のよう



天山山脈は保水力が無い

だ。タクラマカン砂漠には雨が降らないが、天山山脈には雨も雪も降る。天山山脈は「はげ山」で樹木がほとんど無い。このため降った雨は岩山の表面を滑り落ち、しみ込むこと無しに一気に麓に流れ下ってくる。そしてその洪水はタクラマカン砂漠に向かつて押し寄せるのだ。その流れをせき止めるように自動車道路が建設されている。このため、洪水で道路が流されること無いように、数百メートル毎に道路の下を横切る水路を作っている。この水路に向かつて洪水を誘導するために扇形の土手をつくつてある(下の写真参照)のだが、これを車窓から見た時、何のために作つたのか、理解で



洪水を誘導する扇形の土手

きなかった。大自然は、表面的な論理や常識をはるかに超えたものであった。



街道沿いの「瓜売り」

各地で栽培されている瓜は、それぞれの土地の瓜であり、ハミ瓜はハミ(哈密)地方でとれる瓜のことだった。結局、ハミには行かなかった。たのでハミ瓜は食べなかつたが、



糖度の高い「クチャ瓜」

2. ハミ瓜は何処に
ハミ瓜の美味しきについて、ガイドブックなどにしばしば書かれているので、今回の旅行中に是非食べたいと思つていた。クチャに着いて瓜を見つけた。「ハミ瓜」かと尋ねると「クチャ瓜」とのこと。カシュガルで尋ねると「カシュガル瓜」とのこと。すなわち、



干しぶどうは日干し煉瓦で造った倉庫の中で乾燥

行く先々で瓜を食べた。さすが乾燥地とれた瓜は糖度が高く、色鮮やかで香りもあり、どれも美味であった。

3. トルファンの干しぶどう
クチャのバザールで干しぶどうを買おうとすると、現地ガイドが『干しぶどうが一番美味しいのはトルファンだよ』と言う。トルファンは「火州」とも呼ばれる乾燥した大盆地で、夏の最高気温は46℃、冬の最低気温はマイナス28℃にもなるという。標高は海拔マイナスイナス1500mもあるそうで、死海のほとりのマイナス412mには及ばないが、地球の「えくぼ」といつた所だ。

この干しぶどう作りは天日干しせず、日干し煉瓦で造つた風通しの良い倉庫の中で乾燥させている。これにより手間は掛かるが美味しい干しぶどうができるのだと言う。黒い干しぶどうはコッテリとした甘さがある。子供も大人に喜ばれ、薄酸っぱさもあり大人にお勧めとの説明があつた。試食してみると黒い方は今まで食べた干しぶどうで一番と感ずるほど甘くまろやかであり、緑の宝石は王様

が好んで食べたと言われるだけあつて上品な甘酸っぱさがありウイスキーと相性が良さそうに感じたので、両方買い求めた。

4. 不思議発見!

カシュガルの雑貨屋の店先で現地ガイドが『これは何でしょう?』と写真のものを見せた。われわれは「パイプ」とか「キセル」とか勝手なことを言つたが全部ハズレ。これは乳児にオシメをする代わりに、右側のもは男の子のオチンチンに当て、左側は女の子用に使い、股に挟んで揺りかごに結わえ付け、揺りかごの下にお碗を置いて出てきたオシッコを受けるのだそう



「これ何?」



これを付けて揺りかごに寝る赤ちゃん

だ。写真ではお碗が見えないが、赤ちゃんが揺りかごに結わえ付けられているのが分る。これは「オムツかぶれ」にもなりにくそうな優れ物だ。こう言う「不思議発見」があるので、旅行はやめられない!

『吾妻鏡』を読む

〔要約〕治承四年(1180)十二月十二日、天晴れ風静かな午後十時頃、將軍頼朝が建てた新しい屋敷に引越す儀式が行なわれた。大庭平太景義が奉行となり、去る十月に事始めがあつて、大倉郷に建設していただいたもので、上総権介廣常の屋敷から、水干(簡素な装束)の着衣で、石和栗毛の騎馬に乗つて新御殿に入られた。

和太郎義盛が先頭に、加々美次郎長清は將軍の馬の左側に従い、毛呂冠者季光が同様に右に在り、北條四郎時政、……(以下略)がお供として続く。畠山次郎重忠は最後に従ひ、寢殿に入られた後、お供の人達は侍所「十八間」で、二列に向かい合つて座つた。和太郎義盛は中央に座り、着致状を記した。出仕した者は凡そ三百一人だつた。

又、御家人達も同様に宿や館を構え、これからは、関東の武士達は頼朝の力を理解して、一致して鎌倉の主人と認めました。鎌倉は、元々辺鄙な所で、漁師と百姓以外は住む人が少なかつたのだが、街中の道が整備されて、郊外の村や里にも名前が付けられたので、家屋が屋根を並べるようになった。以下省略

大倉御所への引越し……

〔読み下し〕治承四年十二月小十二日庚寅。天晴れ風静か。亥魁、前武衛將軍、新造の御亭に御移徙之儀あり。景義奉行を爲す。去る十月、事始有。大倉郷于營作令む也。時魁、上總権介廣常之宅自り新亭に入御す。御水干、御騎馬(石禾栗毛)。和太郎義盛盛前候に候ひ、加々美次郎長清御駕左方に候。毛呂冠者季光同じく右に在り。北條殿、同じく四郎主、……(以下略)以下供奉す。畠山次郎重忠最末に候。寢殿于入御之後、御共の輩は侍所「十八間」に參じ、二行に對座す。義盛其の中央に候ひ着到すと云々。凡そ出仕之者三百一十一人と云々。又、御家人等同じく宿館を構へる。尔し自り以降、東國皆其の有道を見、推し而鎌倉の主と爲す。所は素より邊鄙にして、海人野叟之外、ト居之類之少なく、正に此時于當るの間、閭巷路を直し、村里に号を授け、加之、家屋並べ、門扉軒を輾むと云々。以下省略

「市民フォーラム」の活動

「市民フォーラム」は、地域住民と行政に対して取材活動を行ない、報道によって市民の公共参加を推進します。また市民間のコミュニケーションの増進に努めます。

地域情報紙「市民プレス」は、「市民フォーラム」が編集・発行し、無料で配布しています。

読者の「オピニオン」(意見・感想)をお寄せ下さい。

TEL 090 (3048) 5502

編集部原宛にどうぞ